

平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について

1 調査対象

	対象学校数	児童生徒数
小学校(第5学年)	320校	約17,080人
中学校(第2学年)	177校	約17,200人

※調査実施期間

平成29年 4月から7月末までの期間

※学校数、児童生徒数は特別支援学校を含んだ数。

※特別支援学校及び小・中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒については、その障害の状況等を考慮して、参加の是非を判断。

2 実技に関する調査

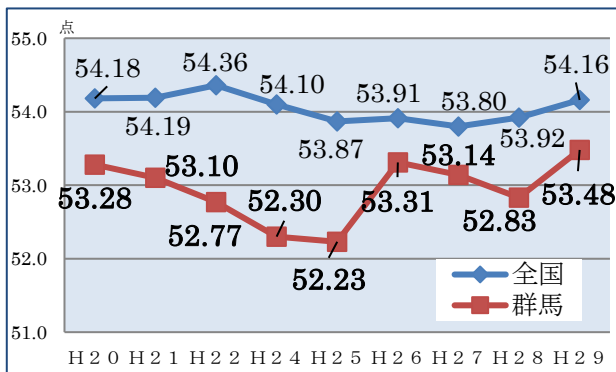
【体力合計点】

〈小学校〉

		29年度	全国比較
男子	本県	53.48	-0.68
	全国	54.16	
女子	本県	55.42	-0.30
	全国	55.72	

【体力合計点の推移】

〈小学男子〉



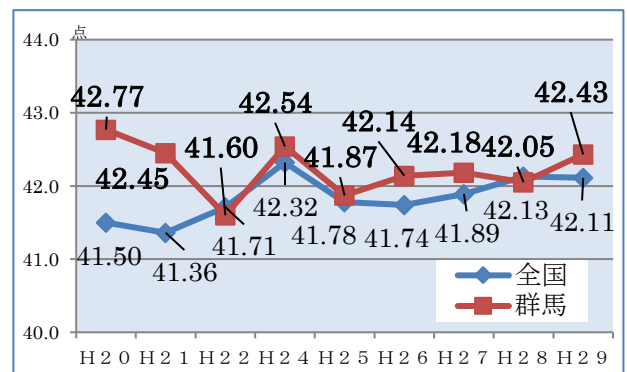
【体力合計点】

〈中学校〉

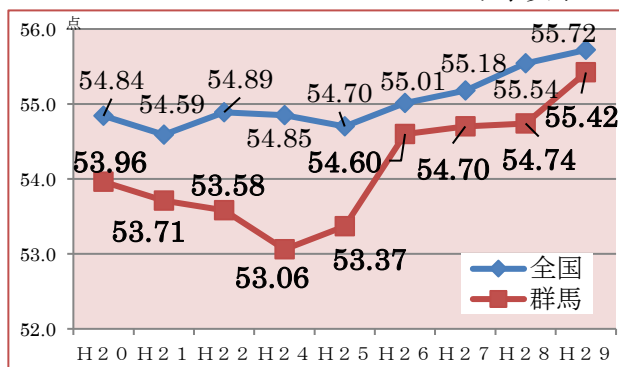
		29年度	全国比較
男子	本県	42.43	+0.32
	全国	42.11	
女子	本県	51.08	+1.11
	全国	49.97	

【体力合計点の推移】

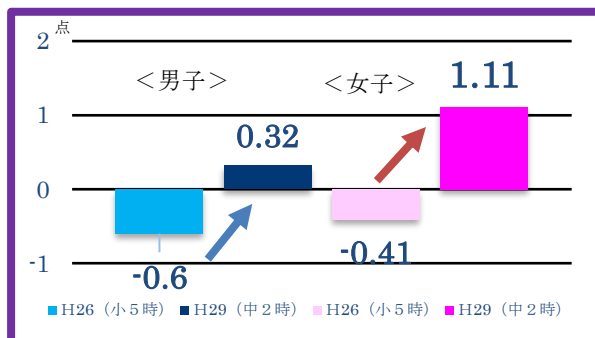
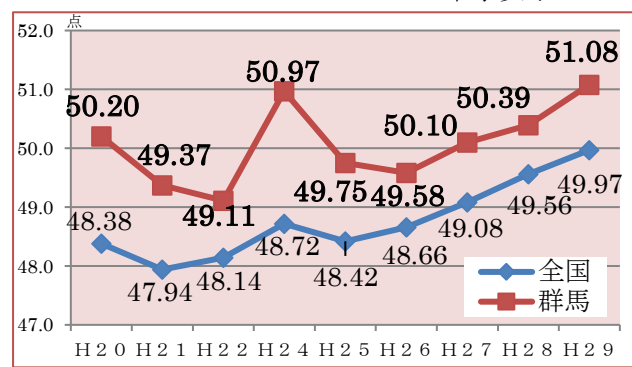
〈中学男子〉



〈小学女子〉



〈中学女子〉



学年集団で見た体力合計点の全国平均との差

現中学校2年生について、小学校5年生時の調査結果と比べると、男子は、全国平均よりわずかに低かったが、全国平均とほとんど差が見られなくなっており、女子についても、全国平均とほとんど差が見られなかったが、全国平均より高くなるなど、男女とも成長している様子が見られる。

〈傾向〉

- ①小学校においては、昨年度と比較し男女とも、約0.6ポイント上回り、本県として男女とも調査開始以来の最高値を示した。なお、全国平均値と比較した場合、男子は全国平均よりわずかに低く、女子は全国平均とほとんど差が見られなかった。
- ②中学校においては、昨年度と比較し男子が約0.4ポイント、女子が約0.7ポイント上回り、女子は本県として調査開始以来の最高値を示した。なお、全国平均値と比較した場合、男子は全国平均とほとんど差が見られなく、女子は全国平均より高かった。

【各項目の結果】

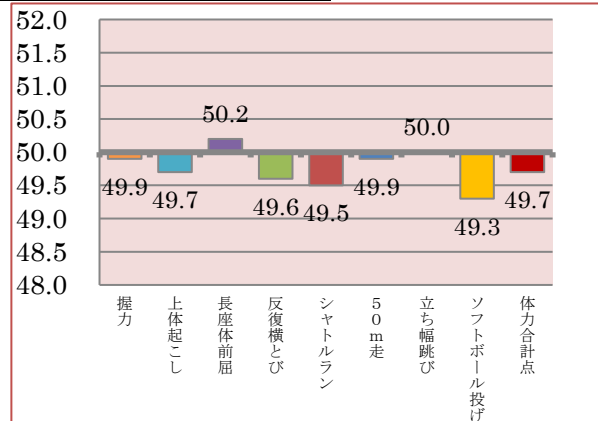
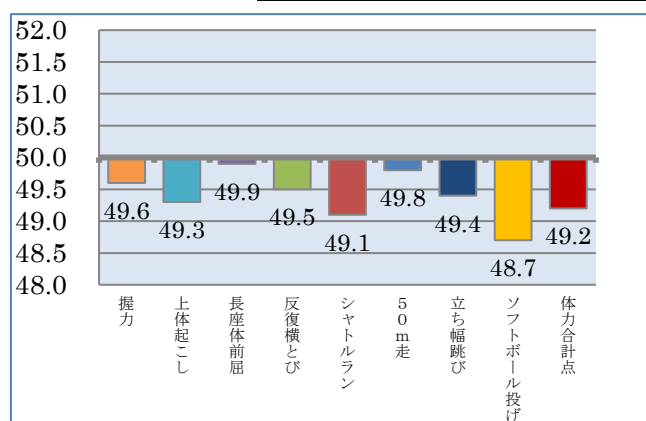
〈小学校〉

		握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び (回)	シャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び (cm)	ボール投げ (m)
男子	本県	16.38	19.52	33.07	41.56	50.44	9.39	150.37	21.44
	全国	16.51	19.92	33.15	41.95	52.24	9.37	151.71	22.53
女子	本県	16.09	18.63	37.58	39.76	40.77	9.61	145.52	13.61
	全国	16.12	18.81	37.43	40.06	41.62	9.60	145.47	13.94

〈小学男子〉

全国平均値を50としたときの群馬県と全国の比較

〈小学女子〉



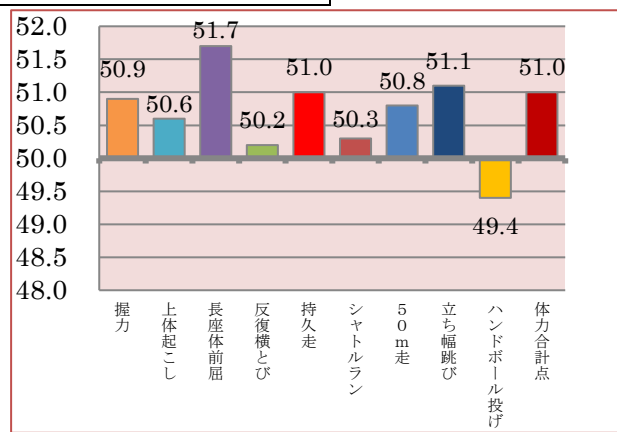
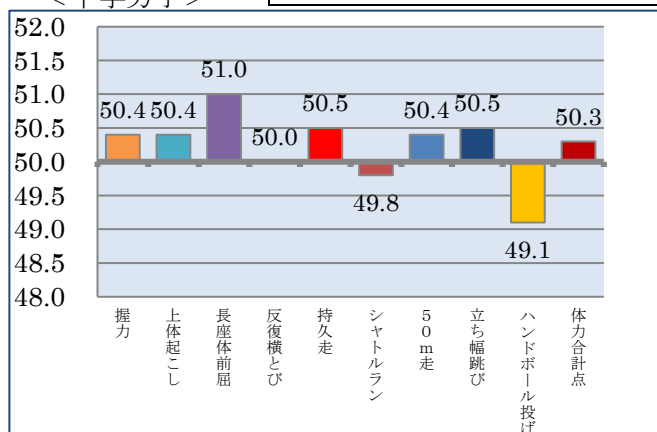
〈中学校〉

		握力 (kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横跳び (回)	持久走 (秒)	シャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅跳び (cm)	ボール投げ (m)
男子	本県	29.19	27.68	44.22	51.89	388.05	85.59	7.96	196.04	20.07
	全国	28.89	27.45	43.20	51.89	391.23	85.99	7.99	194.54	20.56
女子	本県	24.24	24.07	47.53	46.92	283.06	59.77	8.74	171.39	12.73
	全国	23.82	23.73	45.86	46.76	287.36	59.14	8.80	168.57	12.96

〈中学男子〉

全国平均値を50としたときの群馬県と全国の比較

〈中学女子〉



〈各項目における傾向〉

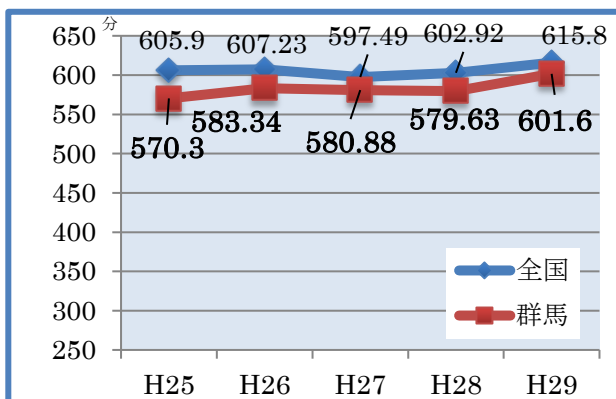
- ①小学校においては、全国平均と比べると男子のソフトボール投げが低く、男子の上体起こし、反復横跳び、立ち幅跳び、女子のソフトボール投げ、男女のシャトルランがわずかに低かった。なお、男女とも全国平均より高い項目はなかった。
- ②中学校においては、全国平均と比べると男女の長座体前屈、女子の持久走、立ち幅跳びが高く、男子の持久走、立ち幅跳び、女子の握力、上体起こし、50m走はわずかに高かった。なお、男女ともハンドボール投げはわずかに低かった。

3. 児童生徒質問紙調査

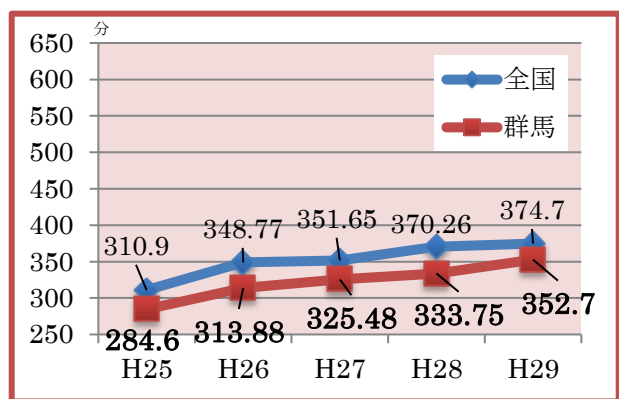
〈全国と比較したときの本県の特徴〉

体育の授業時間以外での運動やスポーツについて（1週間の総運動時間）

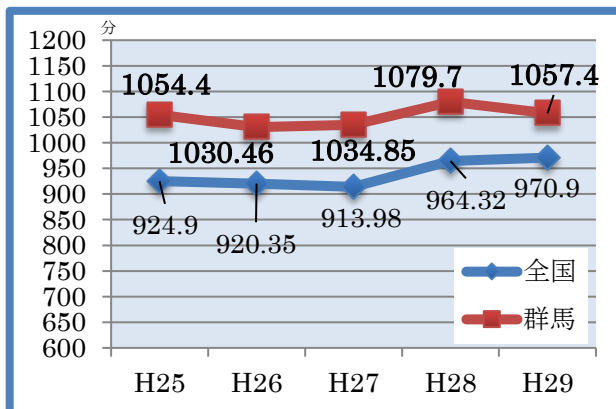
＜小学校男子＞



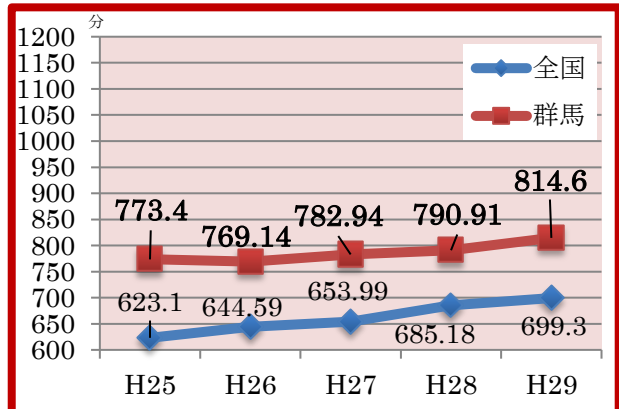
＜小学校女子＞



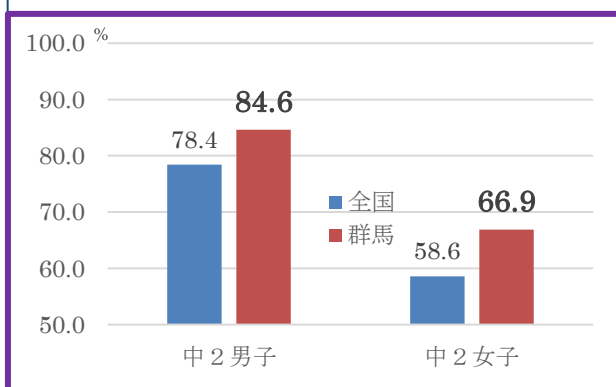
＜中学校男子＞



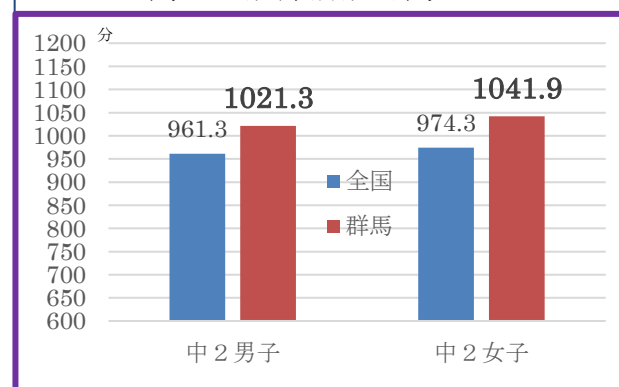
＜中学校女子＞



運動部の入部率について

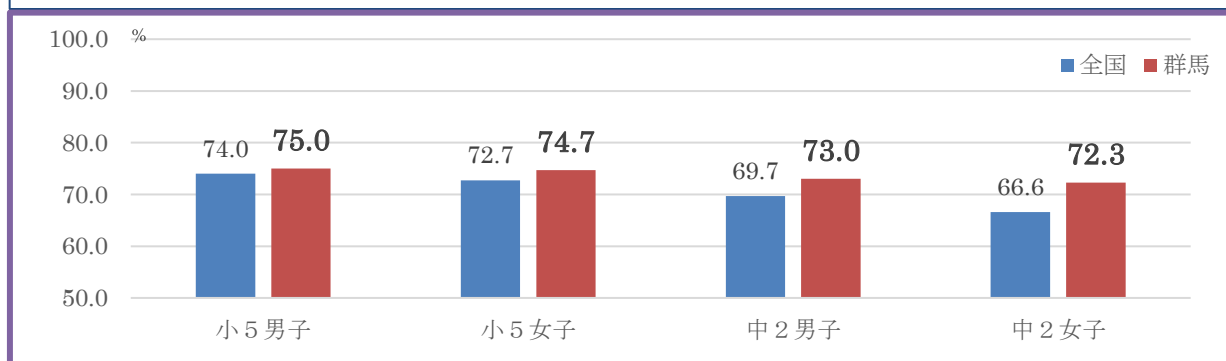


一週間の運動部活動時間について



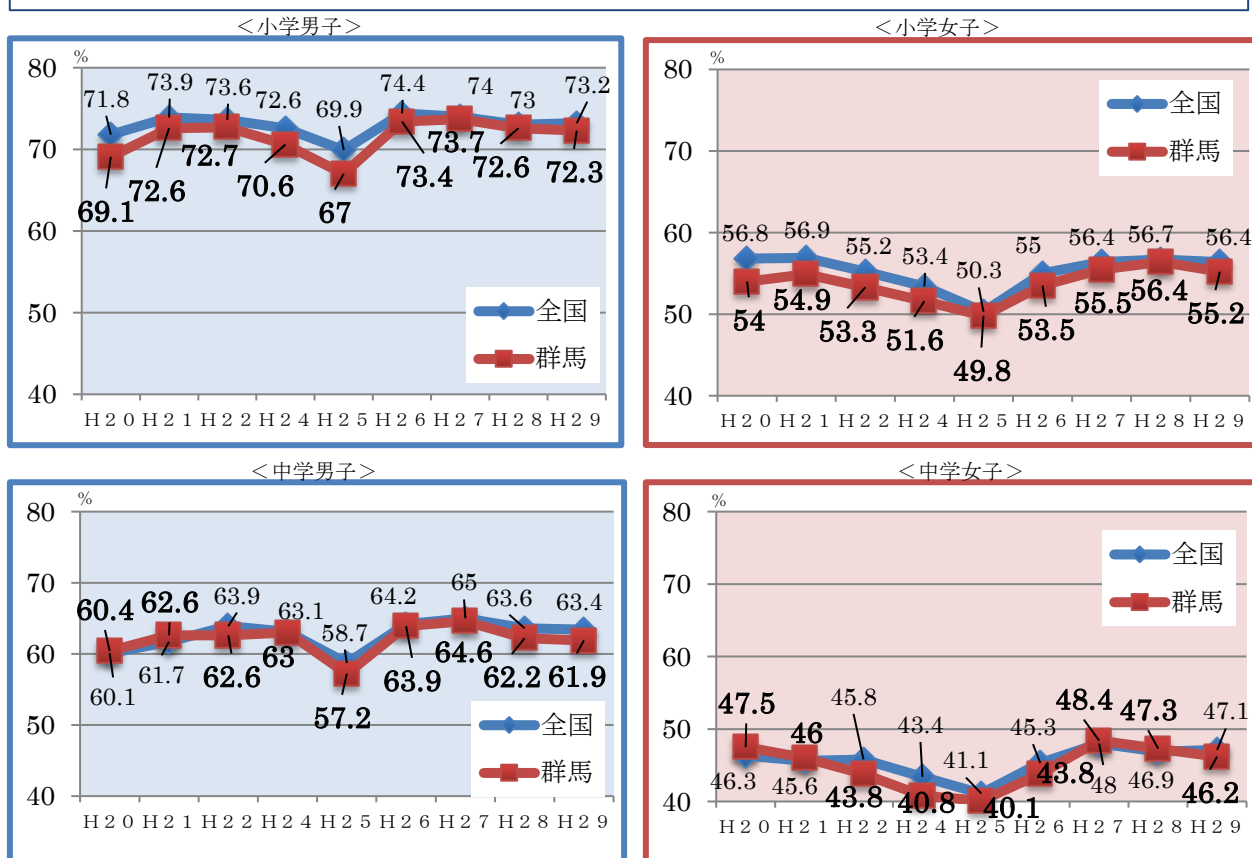
- 体育の授業時間以外での運動やスポーツの時間は、全国平均と比べ中学校の男女は長く、小学校の男子はほとんど差が見られなかった。なお、小学校の女子はわずかに短かった。
- 中学校の運動部の入部率は、全国平均と比べ高い傾向が継続しており、一週間あたりの運動部活動時間も長い傾向が見られた。

体力テストの結果や体力の向上について、自分なりの目標を立てている児童生徒について

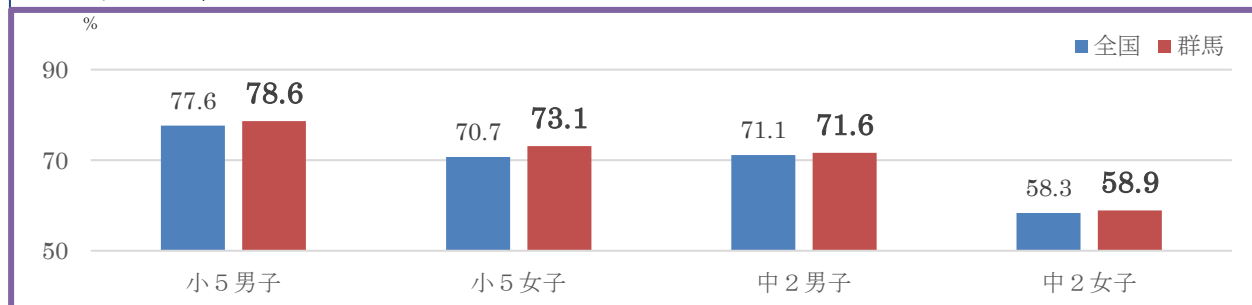


○体力テストの結果や体力向上について、自分なりの目標を立てている児童生徒の割合は、全国平均と比べ中学校の男女と小学校の女子は高く、小学校の男子はわずかに高かった。

運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることが好きと感じている児童生徒について



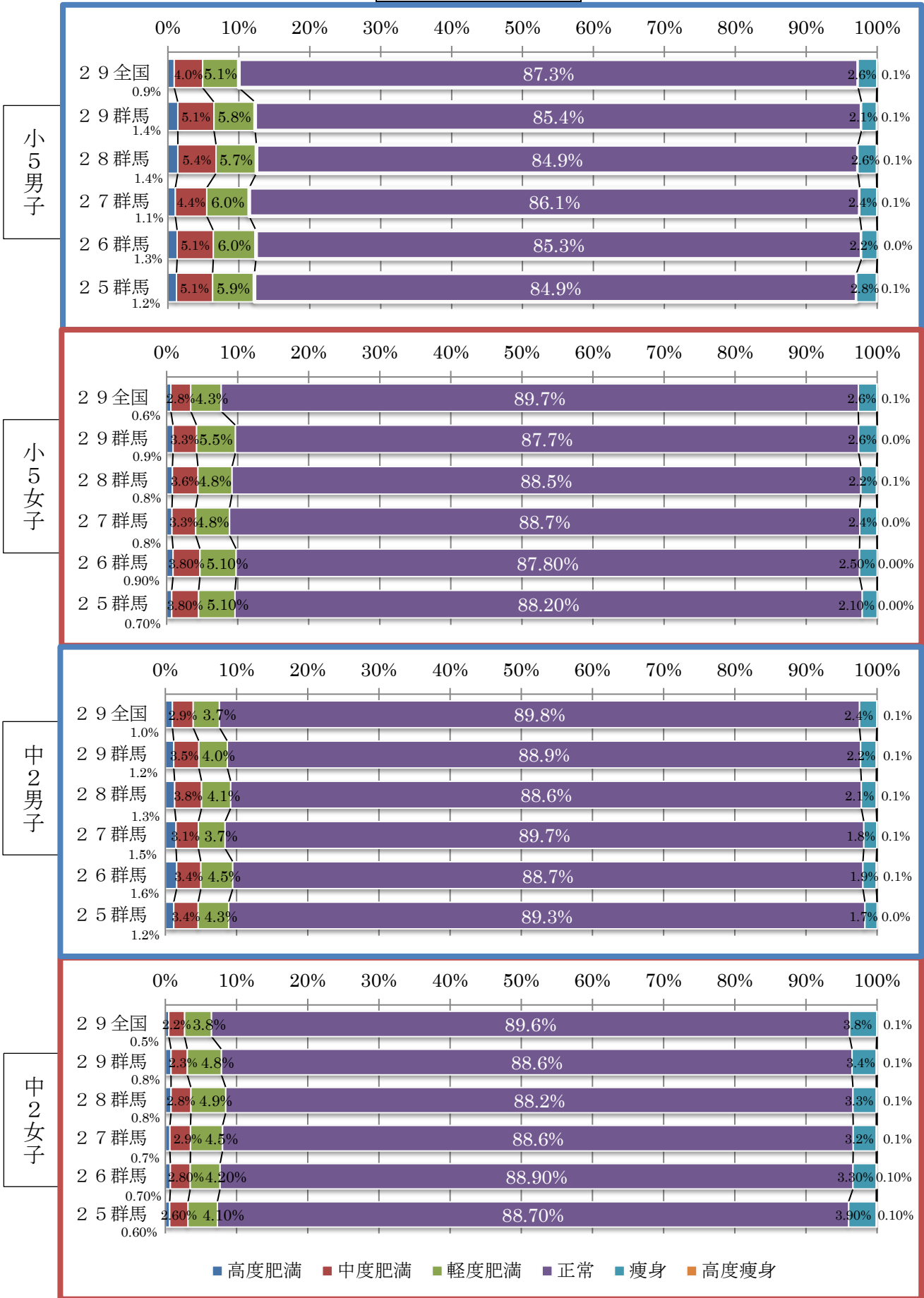
中学校で授業以外でも自主的に運動したいと考えている児童、中学校卒業後に自主的に運動したいと考える生徒について



○「運動やスポーツをすることが好き」と感じている児童生徒の割合は、全国平均と比べ小学校の男子と中学校の女子はほとんど差がなく、小学校の女子と中学校の男子はわずかに低かった。

○卒業後（小学校・中学校）自主的に運動したいと考える児童生徒の割合は、全国平均と比べ小学校ではわずかに高く、中学校ではほとんど差がなかった。

体格調査の結果から

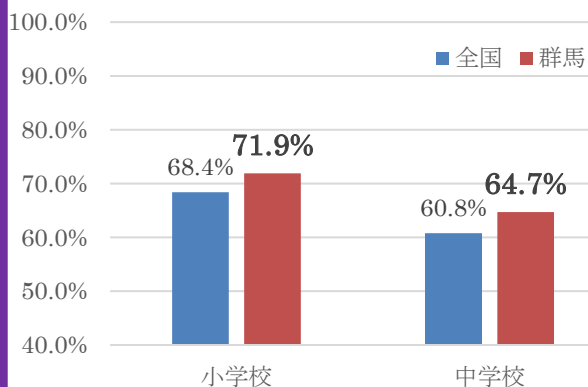


○肥満傾向の児童生徒の出現率は、全国平均と比較すると小学校では高く、中学校ではやや高い傾向が続いている。

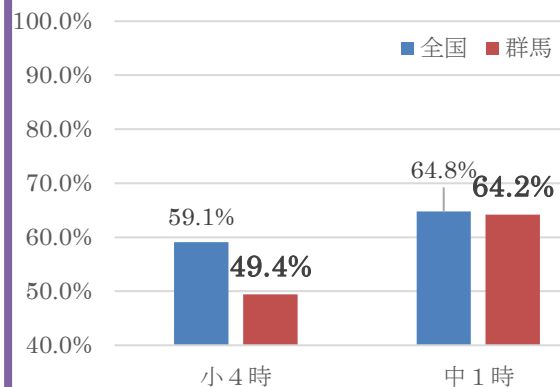
4. 学校質問紙調査

〈全国と比較したときの本県の特徴〉

体力・運動能力向上の
学校全体としての目標設定をしている

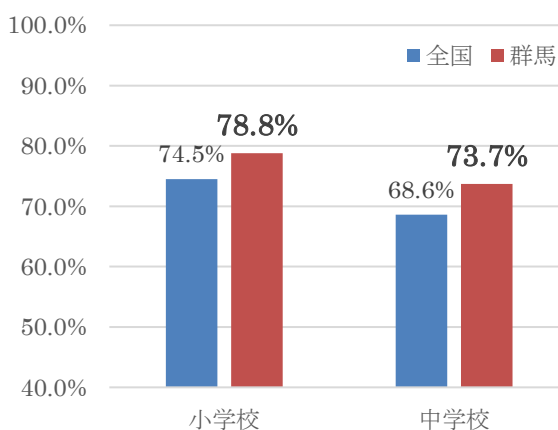


体力・運動能力向上の
学年としての目標設定をしている

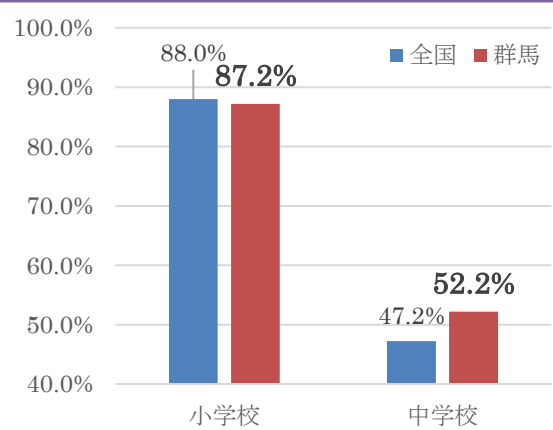


○学校全体で、体力・運動能力向上のための目標を設定している学校の割合は、小学校・中学校とも、全国平均と比べ高いが、学年としての目標設定の割合は、小学校で低かった。

体育・保健体育の授業について、児童生徒の実態に応じ、運動課題を段階的に準備している



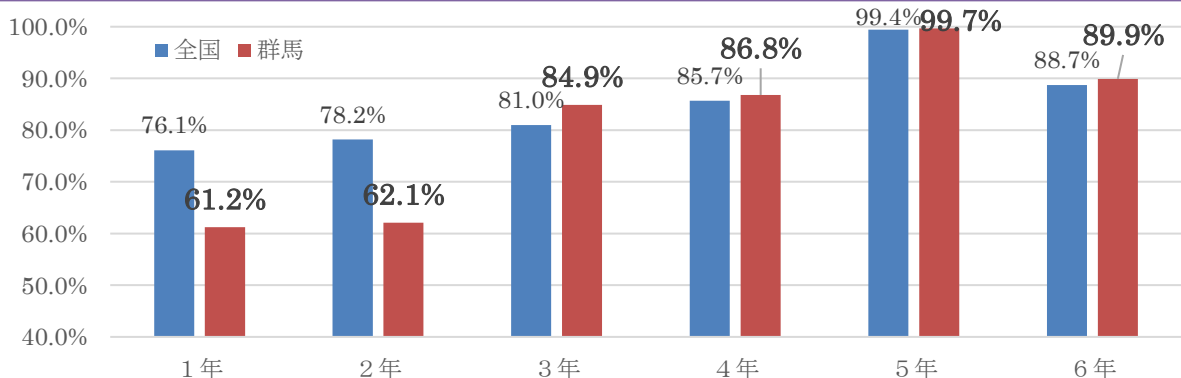
前年度、全児童・生徒に対する体育・保健体育授業以外での体力・運動能力の向上に係る取組を行った



○体育・保健体育の授業について、児童生徒の実態に応じ、運動課題を段階的に準備している学校の割合は、全国平均と比べ小学校・中学校とも高かった。

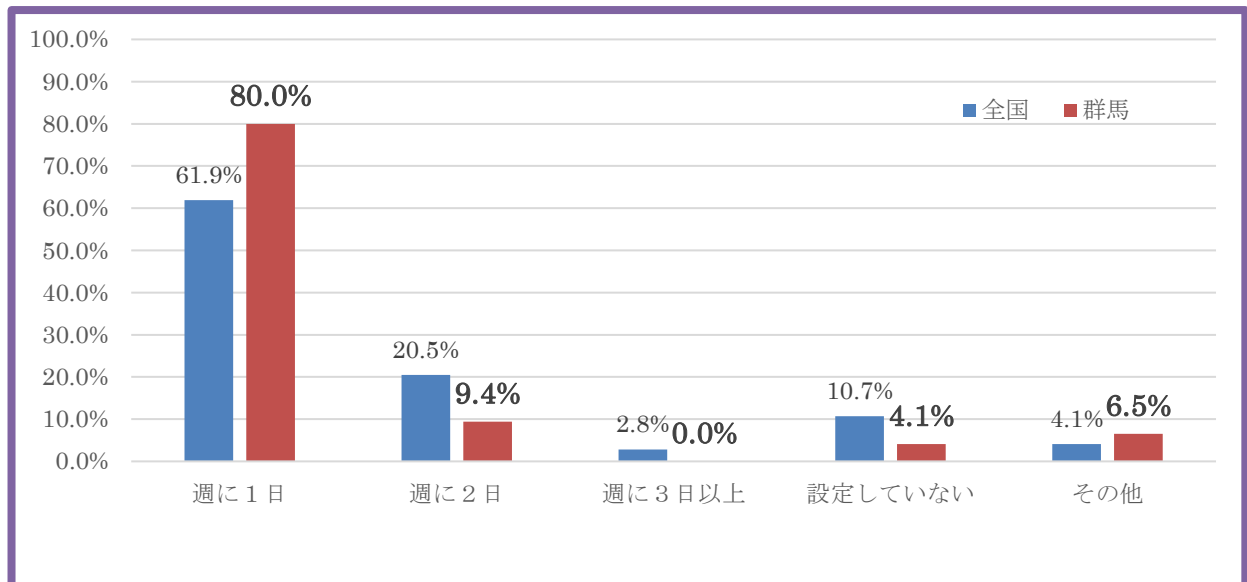
○前年度、全児童・生徒に対する体育・保健体育授業以外での体力・運動能力の向上に係る取組を行った学校の割合は、全国平均と比べ中学校では高く、小学校ではほとんど差がなかった。

新体力テストの実施率（小学校）

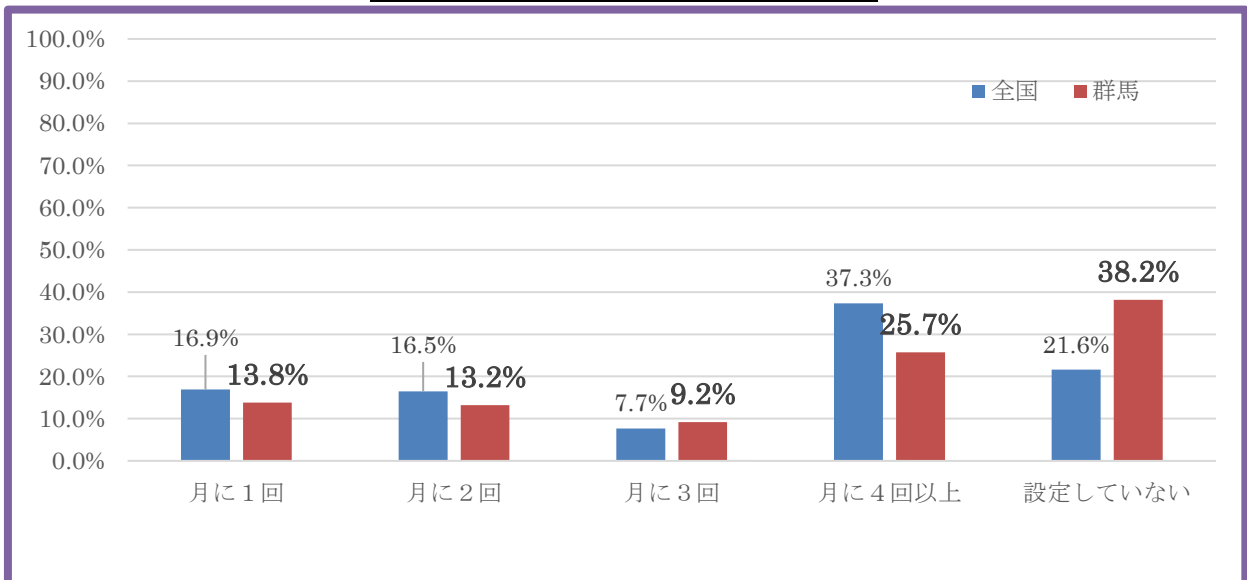


○小学校1年生、2年生における新体力テストの実施率は、全国平均と比べて低い傾向が継続している。

学校の決まりとしての部活動の休養日設定



学校の決まりとしての土日の休養日設定



○中学校では、部活動において週1日あるいは2日の休養日を設定している割合は、全国平均に比べて高いが、土日の休養日設定については、全国平均に比べて低い傾向にある。

5. これまでの取組

○体力向上プランの作成・実施

各学校において昨年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果等に基づく自校の「体力向上プラン」を作成し、年間を通して体力向上に係る取組を組織的に推進した。

※体力向上プラン…年度初めに計画書を作成し、年度末に報告書を県に提出する。体育の授業、学校の教育活動全体、地域や家庭との連携、部活動等の視点で各学校の実態に合わせて作成する。

○指導資料の作成及び活用

「子どもの体力向上ガイドブック」を作成し、各学校の実践する「体力向上プラン」の中から優れた取組を取り上げ、体力向上に関する実践例や参考となる運動例等を記載し、県内全ての小学校・中学校に配布した。また、各学校では、県教育委員会で作成した「新体力テスト実施に当たって」を活用し、実施上の留意点を十分に理解した上で新体力テストを実施した。

○体力向上指導者研修会の実施

県内全ての小学校・中学校の体育主任等が参加し、体力向上の意義や学校全体で組織的に取り組む必要性を研修し、各学校での実践に生かした。

○モデル校における体力向上の取組の実施

モデル校においては、学校の教育活動全体を通じた体力向上の取組を行うとともに、体育専科教員を活用した実践を行うなど、他の学校のモデルとなる取組を推進した。

<主な成果>

- ◎児童生徒の体力向上に向けた目標設定や、児童生徒の実態に応じた取組等への意識の向上
- ◎学校としての体力向上に向けた目標設定の増加
- ◎体力合計点の平均の向上傾向
- ◎小学校における体育の授業以外の運動量の増加 など

<主な課題>

- 運動やスポーツへの愛好的態度の向上に向けた取組の充実
- 投力の向上に向けた取組の工夫
- 生活習慣の改善 など

6. 今後の取組

(1) 県教育委員会

①本調査における結果の活用方法を示した資料の配付

県教育委員会として、各学校が自校の課題を把握するとともに、課題解決に向け取組を見直し、解決する手立てを構築できるよう、本調査の活用方法を示した指導資料を作成し、全ての小学校・中学校に配布する。

②体力向上推進モデル校における取組の支援

体育専科教員を活用した取組を実施する等、教員の指導力向上及び体育授業の充実を通して、学校の教育活動全体を通じた体力向上の取組を支援する。

③体力向上に関する報告書の作成・配布

各学校の実践する「体力向上プラン」の中から優れた取組を取り上げ、体力向上に関する実践例や参考となる運動例等を記載した資料を作成し、県内全ての小学校・中学校に配布する。

④体力向上取組優良校及び体力優良証交付率優良校の表彰

「体力向上プラン」に基づき優れた実践を行った学校を表彰するとともに、体力優良証の交付率が優れている小学校・中学校・高等学校を表彰する。

(2) 市町村教育委員会

国から送付された市町村の結果を、国や県、市町村の結果と比較するなどして、各市町村教育委員会として課題を明確にし、教育施策の改善に取り組む。

(3) 各学校

国から送付された自校の結果を「学校用確認シート」等を活用して、国や県、市町村の結果と比較するなどして、自校の課題を明確にする。課題の解決に向け、これまでの自校の「体力向上プラン」に基づく取組を見直し、今後必要な取組を共通理解して、組織的に体力向上に取り組む。その際、「はばたく群馬の指導プラン」及び県の指導資料、国の結果分析資料等を参考にする。また、個人用の「記録シート」を利用して個々の児童生徒の体力の状況を把握し、日々の指導に生かす。

さらに、家庭・地域との連携を深め、学校外での運動習慣の形成や生活習慣の改善を呼びかけていく。

平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果の活用について

群馬県教育委員会健康体育課

本調査は県内全ての小学校及び特別支援学校小学部第5学年、中学校及び中央中等教育学校、特別支援学校中学部第2学年を対象に実施されました。各学校においては、調査結果をもとに児童生徒一人一人の体力・運動能力、運動習慣等の実態や学校及び学級の傾向を把握し、それに基づいた指導を進めていくための資料として活用することが必要です。

なお、調査結果を教育活動の資料として活用するに当たっては、自校の結果を比較・分析することで課題を明確にし、その解決の手立てを考え、学校全体で体力向上に向けた取組（体力向上プラン）を立案・実践するようにしましょう。

◎調査結果の受取から指導の手立ての実践までの流れ

結果の受取

※スポーツ庁指定の業者より学校に直接搬入されます。

- 1 送付された内容物の確認（CD、報告書、記録シート等）
- 2 児童生徒への配布物の確認（個人の結果、記録シート等）

・同封のCDを活用することで、自校の結果を分析することができます。
・調査結果は学校ごとに異なります。各学校の調査結果を分析し、体力の向上に向けての取組の改善に生かしましょう。

実態・傾向の把握

- 1 学校及び学級の平均値と県及び全国平均値との比較・分析
- 2 児童生徒一人一人の調査結果と県及び全国平均値との比較・分析
- 3 個人プロフィールに基づく児童一人一人の体力の分析

・同封の「記録シート」を活用し、児童生徒に自分の体力・運動能力や運動習慣等を把握させ、結果を生かすようにさせましょう。
・同封の「学校用確認シート」を活用し、自校の体力の状況を確認し、取組に生かしましょう。

課題の明確化及び体力向上プランの検証・修正

- 1 学校、学年、学級及び児童生徒一人一人の体力・運動能力の課題の明確化
- 2 学校における体力向上プランに基づく取組の検証・修正
 - ① 課題をもとに、今年度の体力向上プランに基づく取組の検証・修正
 - ② 全教職員の共通理解のもとに、次年度の体力向上プランの構想の立案

学校全体だけでなく、学年ごとの課題も明確にし、体力向上プランの検証や修正に活用しましょう。

指導の手立て

1 「体育」「保健体育」における指導の充実

- ① 実態や課題に対応した運動内容の配列などの年間指導計画の工夫
 - ア 小学校6年間、中学校3年間を見通した指導計画を作成する。
- ② 児童生徒一人一人の明確な運動課題に基づく学習活動の工夫
 - ア 「記録シート」や学校独自で作成した「個人記録表」等を活用し、児童生徒一人一人に結果を把握・分析させることで、自己の体力の把握と課題を明確にする。
 - イ 運動の楽しさや喜びを味わわせるような活動や運動の場を取り入れ、進んで運動に取り組めるような学習活動を行う。

2 体育・健康に関する指導の充実

- ① 学級活動、児童会・生徒会活動、学校行事等における魅力ある体育・健康に関する活動計画の作成
- ② 遊具や固定施設等の施設・設備の整備と活用法の工夫
- ③ 運動部活動の充実と地域のスポーツクラブ等との連携

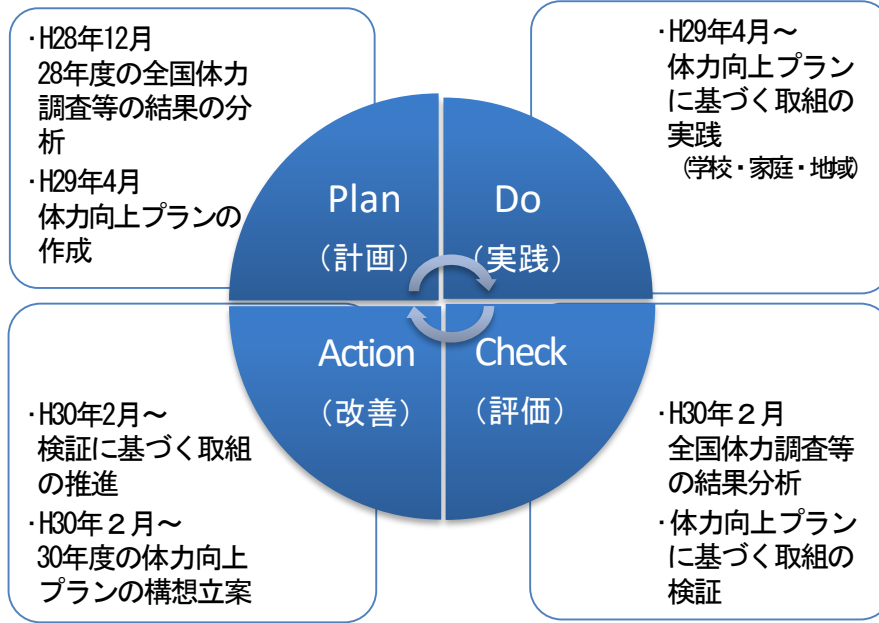
3 家庭・地域との連携の推進

- ① 学校だよりや学級通信により、家庭や地域への調査結果の公表
- ② 家庭・地域との連携による日常生活（生活習慣）における健康・体力づくりの推進

◎学校用確認シートを活用し、自校の体力、体力向上への取組を必ず確認してください。

■調査結果を踏まえ、自校の取組を検討しましょう。

(昨年度－今年度－来年度に向けての流れの例)



◎報告書巻末の取組チェックシートで、自校の取組を確認しましょう。体力上位校が実施している取組の実施状況をチェックし、結果の分析に役立てましょう。

◎子どもの体力向上ガイドブックを活用しましょう。ガイドブックに紹介されている体力向上推進モデル校の取組や、体力向上取組優良校の体力向上プランと、自校の取組を比較し、自校の体力向上プランの作成に生かしましょう。

■報告書、結果資料CD、事例校の実践等を活用しましょう。

調査結果が届いたら、自校の結果資料CDを活用するとともに、同封の報告書を熟読の上、報告書に掲載されている事例校の取組を参考に自校の取組を検証・改善しましょう。また、学校のホームページや学校だより等により自校の結果を公開することを検討しましょう。

結果の公表については、単に体力合計点などの数値のみではなく、取組の成果や課題が、児童生徒や家庭、地域に具体的に伝わるように工夫しましょう。

◎ 本調査は、実施要領により、各教育委員会、学校等で調査結果を活用した取組に努めることが定められています。それぞれにおいて、結果を分析し、施策や指導に生かしていきましょう。
「平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領」より抜粋 ※詳しくは、実施要領を確認してください。

7. 調査結果の取扱い

(4) 調査結果の活用

各教育委員会、学校等及びスポーツ庁においては、調査の目的を達成するため、以下のような調査結果を活用した取組に努めることとする。

ア 各教育委員会、学校等においては、多面的な分析を行い、自らの子供の体力・運動能力及び子供の体力・運動能力等の向上に係る施策の成果と課題を把握・検証し、保護者や地域住民の理解と協力のもと適切に連携を図りながら、子供の体力・運動能力及び子供の体力・運動能力等の向上に係る施策の改善に取り組むこと。

イ 各学校においては、調査結果を踏まえ、各児童生徒の全般的な運動習慣の改善等に努めるとともに、自らの体育的活動における指導等の改善に向けて取り組むこと。

ウ 各教育委員会においては、調査結果を踏まえ、それぞれの役割と責任に応じて、学校における取組等に対して必要な支援等を行うなど、域内の子供の体力・運動能力及び子供の体力・運動能力等の向上に係る施策の改善に向けた取組を進めること。

(5) 調査結果の取扱いに関する配慮事項

(ウ) 学校においては、自校の結果について、それぞれの判断において、(エ)に基づき公表することは可能であること。

(エ) 調査結果の公表に当たっては、以下の①から⑥までにより行うこと。

① 公表する内容や方法等については、教育上の効果や影響等を考慮して適切なものとなるよう判断すること。

② 調査結果の公表を行う教育委員会又は学校においては、単に体力合計点などの数値のみの公表は行わないこと。

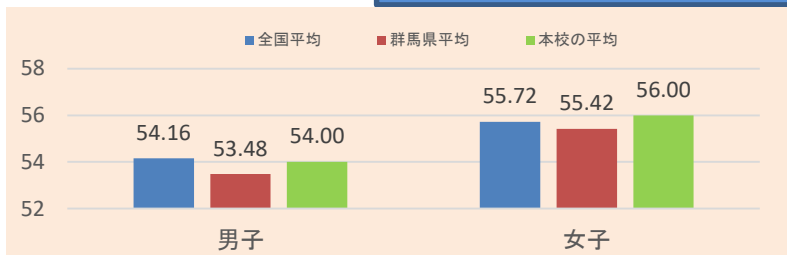
③ (ア)①又は(イ)②に基づき教育委員会が個々の学校名を明らかにした公表を行う場合、又は(ア)②において市町村教育委員会が学校名を明らかにした公表に同意する場合は、当該学校と公表する内容や方法等について事前に十分相談すること。

平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果

〇〇〇〇立〇〇〇〇学校

全国全ての小学校第5学年（中学校第2学年）を対象に行われた全国体力・運動能力、運動習慣等調査における本校の結果をお知らせします。

体力合計点の平均比較



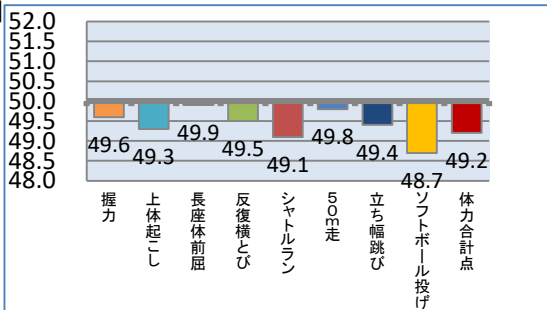
この資料は、今年度の全国と群馬県の結果をもとに作成しています。（※本校の平均は参考）掲載している項目等を参考に、自校の結果（児童生徒の体力・運動習慣・生活習慣・学校の取組等）を加えるなど、使いやすい工夫して活用してください。

自校の結果を公開するに当たり、「結果」のみを提示するのではなく、その「原因」や「改善策」なども合わせてコメント等により示すようにしましょう。

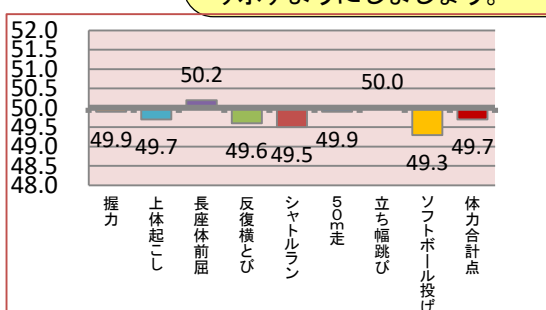
■全国平均と比較すると…県平均と比較すると…（結果、原因、改善策）

全国平均を50としたときの比較（T得点）

【男子】



【女子】



■〇〇は全国より高いものの…（結果、原因、改善策…）

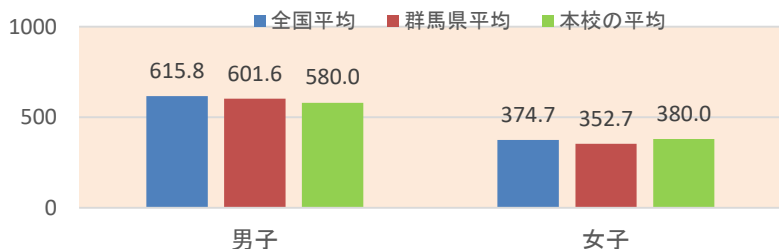
前年度結果との差（H29平均値－H28平均値）

		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	シャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ボール投げ
		(kg)	(回)	(cm)	(回)	(回)	(秒)	(cm)	(m)
男子	29年度	16.38	19.52	33.07	41.56	50.44	9.39	150.37	21.44
	28年度	16.37	19.18	32.56	40.98	48.80	9.39	149.18	21.50
	差(29-28年度)	0.01	0.34	0.51	0.58	1.64	0	1.19	-0.06
女子	29年度	16.09	18.63	37.58	39.76	40.77	9.61	145.52	13.61
	28年度	16.05	18.09	37.27	39.2	39.58	9.63	144.25	13.58
	差(29-28年度)	0.04	0.54	0.31	0.56	1.19	-0.02	1.27	0.03

■平成28年度と比較して…（結果、原因、改善策…）

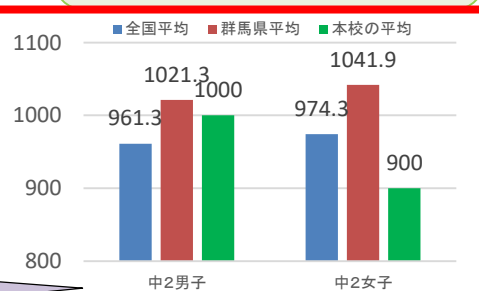
児童生徒質問紙調査の結果から（全国と比較したときの本県の特徴）

体育の授業時間以外での運動やスポーツについて（1週間の総運動時間）



中学校では、部活動の運動時間についても分析してみましょう。

■全国と比較して、男子は…女子は…（結果、原因、改善策…）



体力合計点と朝食の関係

朝食摂取状況

クロス集計システム《小学校5年生 男子》



クロス集計システム《小学校5年生 女子》



■朝食を毎日食べている児童とそれ以外の児童では、体力合計点に差が…
(結果、原因、改善策…)

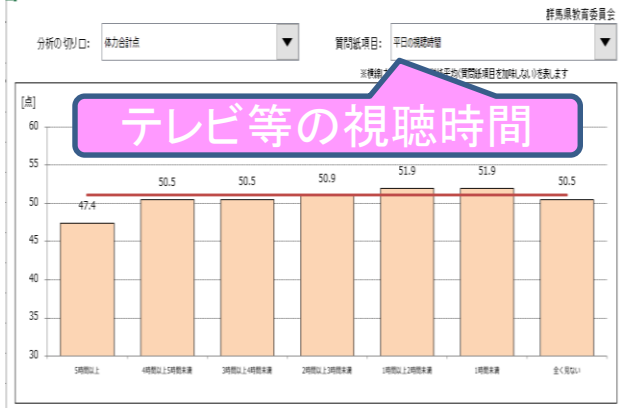
クロス集計も分析に活用しましょう。

クロス集計システム《中学校2年生 男子》



睡眠時間

クロス集計システム《中学校2年生 女子》



テレビ等の視聴時間

体格調査の結果から（全国と比較したときの本県の特徴）

		高度肥満	中度肥満	軽度肥満	正常	痩身	高度痩身
男子	29全国	0.9%	4.0%	5.1%	87.3%	2.6%	0.1%
	29群馬	1.4%	5.1%	5.8%	85.4%	2.1%	0.1%
女子	29全国	0.6%	2.8%	4.3%	89.7%	2.6%	0.1%
	29群馬	0.9%	3.3%	5.5%	87.7%	2.6%	0.0%

■「正常」の児童生徒の割合は…（結果、原因、改善策…）

生活習慣との関連も含め分析してみましょう。

【小学校】

- 「記録シート」を参考に、ご家庭でお子さんといろいろな運動や新体力テストを行ってみてください。
- お子さんとともにお子さんの生活習慣を見つめ直して、目標を立ててみてください。

【中学校】

- 「記録シート」を御覧になり、お子さんと新体力テストのことについて話題にしてみてください。
- お子さんとともにお子さんの生活習慣を見つめ直して、目標を立ててみてください。